

令和 6 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 日韓トンネル研究会

1. 事業の成果

社会教育事業では、日韓トンネルのパンフレットなどの出版物を使用し、日韓トンネルの意義を広めた。

調査研究事業では、当会の「ルート選定委員会」、「トンネル工法勉強会」および「地形地質勉強会」で研究した結果を整理して基本情報を確認すると同時に今後の研究の課題を抽出した。

国際協力事業では、当会の WEB サイトの多言語化を検討した。

情報収集提供事業では、当会のホームページの年間 22 回更新し新しい情報を公開した。

刊行物の発行事業ではパンフレットや冊子を増刷した。

2024 年度は以下のことを研究した。

1. 社会教育事業
 - ・インターネットを活用した広報
 - ・トンネル関連技術者への講演
2. 調査研究事業
 - ・ルート、工法、トンネル断面形状の検討
 - ・地質調査の課題整理
3. 国際協力事業
 - ・インターネットを活用した情報発信
4. 情報収集提供事業
 - ・国会図書館などでの関連資料検索
 - ・ホームページの更新
5. 刊行誌の発行事業
 - ・冊子、パンフレットの増刷
 - ・パンフレットの増刷

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業費の総費用 5,118 千円

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
社会教育事業	1-1. 広報活動 出版物やパンフレットなど各種資料をインターネットを活用し広く公開し、プロジェクトに関心をもつ方々に情報を提供した。 1-2. 講演 交通インフラ関連の技術者などを対象に日韓トンネルを研究する必要性を語った。	通年	日本	4人	会員 政財官各界人 大使館 600人	250
調査研究事業	2-1. ルート 基本ルートを検討※ ・位置：起点=博多駅、終点=釜山駅→372km ・海底距離：唐津～巨済島間 130km ・地上駅：唐津, 杓岐, 対馬, 巨済島に設置 ※対馬海峡に西水道以西は韓国側との共同研究が必要 2-2. 工法 未固結の新期堆積層内最深部で 2.0MPa 程度の水圧がかかるためシールド工法による掘削となる。水密確保のため横坑は使用しない ・トンネル外径=15m, 内径=13m, ・土被 30m ・断面形状：円形、複線・中央壁設置型 ・車両限界：幅 4,100mm, 高さ 5,600 mm 未固結の新期堆積層以外 ・単線並列断面、山岳工法など多様な設計、工法が可能 2-3 調査 ・海上ボーリング調査実現への道筋を検討 ・対馬海峡西水道：計画検討が可能なレベルまで日韓両国共同で地質調査が必要なため	通年	日本	26人	会員 技術者 8,000人	3,327
国際協力事業	3. インターネットによる情報発信 当会 WEB サイト (ホームページ) の掲載情報の韓国語・英語化を検討	通年	韓国 日本	10人	不特定多数	232
情報収集提供事業	4-1. インターネットによる情報収集 国内や韓国をはじめとする海外でのトンネルの設計、施工、維持管理などに関する情報を収集して整理した。 4-2. ホームページの維持と更新	通年	日本	4人	不特定多数	365
刊行紙の発行事業	5-1. 冊子の増刷 冊子「日韓トンネルの構想と実現への展望」を増刷した。 5-2. パンフレットなどの増刷	随時	日本	10人	会員他 2,000人	945